

瓊林49~100号 1冊毎のプロフィール

(1)「瓊林」(49~100号)の52冊につき、1冊1行毎のプロフィール(頁数・記事数・特質)を一覧表に掲げた。「瓊林」誌は1959(S34)年(7/20)に第4号が発刊されたあと、暫くは、リーフレット状の綴じ込み姿であったが、49号よりA5判の本格的な雑誌となった。1976(S51)年、新生の49号は、巻頭に「序にかえて」を置き高らかに宣言する。即ち「瓊林会の目的の第一が、母校の運営及び商業経済に関する調査研究の援助である以上、本誌の意図する所も本目的達成に合致する如く編集されねばならぬ」「本誌を名実ともに瓊林会OBと母校教職員、現役学生との交歓の場とし、旧高商生と学部卒同窓の繋がりを強化する布石にしたい。御一同の愛学、愛校精神の表現を紙面に頂戴したい」と宣言した。

(2) 2002年まで4半世紀の間、どのような内容の「瓊林」が作られたのであろうか。本表の末尾で統計的な集約を行うと、(49-100号)合計52冊分の総頁数は6,354頁、うち会員名簿類1,126頁。記事数は3000件、敬弔者2903名、仏を偲ぶ「合掌」記事も248件を数える。1冊当たり平均では、総頁122頁、うち[名簿]22頁、[事務局扱]19頁。残り81頁に[①~⑥の記事]を収載する。[名簿]欄は注記をご参照。[事務局扱]欄の記事は[(a)総会・決算報告・本部-母校便り・寄贈図書・連絡事項・編集後記]及び[(b)=敬弔者氏名(卒回)及び「合掌」記事]の2つからなる。記事欄の内容は[①特別寄稿=企画記事]/[②随想]/[③俳句・川柳・短歌などの短詩形]/[④汗と青春・寮歌祭参加記]/[⑤同期の集い]/[⑥地方支部だより]などが配置される。

(3)「瓊林」各号を要約する1行文言について、「瓊林」52冊・26年の歩みは、次の3つの時期に区分できる。

(i) No49~60---隆盛期—「70年史」を編纂した高商世代を軸に、同窓会員の全てが、自らの青春・母校・長崎同僚・戦乱(外地)を懐古し(No52~54)、ノブレス・オブリジエを誇示した時期である。10年前の学部文教地区移転反対運動成功もあって、会員の自負は高く、武藤長蔵・浅野金兵衛・伊藤久秋・伊東勇太郎先生を敬慕し、中国同窓生を受入れ、当方からも訪中旅行団を結成した。我が国経済は高度成長を終えて低成長期にあったが、会員に動揺はなく、母校の伝統と栄光を80年記念祭に繋ぐべく、リベラルで自負に溢れた様々な草稿が本誌を飾った。地区別・同期会別の会員誌も盛んで、本誌の編集もこの気配に支えられ悠然と身を委ねていた。

(ii) No61~85---波乱期—当初、長崎大水害を体験したが依然として同期会は盛況で、瓊林友の会・瓊翠会が発足し、永田会長国際化講演・東南ア研活性化・学部公開講座が開かれ、80周年記念式典・募金などが賑やかに展開された。当時とて(No64/6)「尋ね人」などの問題は伏在していたが、編集子が気懸りにする程度であった。然し(No68)、保田学長(大学移転統合案)を契機に状況は変転する。(No75)土屋学長就任・(No71)学部教官の大量転出・(No80)文部省高官の「長大(学部)死に体」発言・(No80/81/83)梅田専務理事の「母校の大学院問題」などを経て、母校の社会的名声の凋落が顕著となる。「どうした経済学部!」という世間・マスコミの激励にも支えられ、歴史と伝統を自負する本会も、その応対(No77/84)に忙殺される。その後、関係者・事務局により、逐一その経緯報告が届き、徐々にその舞台裏、母校・在校生側の窮状も明らかされていく。

(iii) No86~100---模索期—1995(H7)に大学院設置は叶うが、隆盛期を支えた戦前戦中世代は幽冥界へ去り、高商40回~学卒世代が瓊林会の軸となる。現世は(No88)「[仰げば尊し]の片鱗もなき母校」であり、経済は(No93)巨大証券の消滅などバブルが破綻する。「瓊林」誌も低迷・閑散期が続く。母校は実務界より教官を迎えるが、教官・在学・卒業生共に、母校・瓊林会への想いは人生の1通過点でしかなく、デジタル化・希薄化する。編集事務局は、伝統と矜持を誇った「瓊林」誌を如何にを保ち(No100)、その先の母校100周年記念(107号)に繋げていくのか思案する。(No82)頃より卒業回数を特定して寄稿者を募り、朝日新聞に広告を展示し(No94)、更に学園紹介のDVD(No95)を制作するなどパブリシティの維持に目覚め、懸命に再生を模索していく。

瓊林49~100号 1冊毎のプロフィール

号数	刊行年月	1冊の頁数			記事の内訳(件数)						本誌の特質・特集記念行事・編集後記など
		A 総頁数	B 名簿	C 事務局	① 特別寄稿	② 随想	③ 俳歌壇	④青春 (寮歌祭)	⑤ 同期会	⑥ 支部便り	
N049	1976(S51)/12	118	22	10	3	6	3	6(1)	21	10	短大創立25周年記念祝典・武藤先生遺稿集の刊行
N050	1977(S52)/5	117	20	10	1	26	5	1	8	1	「週刊朝日」青春風土記『長崎高商』・東京瓊林句会
N051	1977(S52)/12	148	17	8	1	26	14	14(1)	18	8	「長崎港のまわりで」・「大学院設置決議文」(瓊林会)
N052	1978(S53)/5	106	28	9	1	16	8(1)	18	10	4	卒業学生の恩師・先輩に対する態度に就て(事務局)
N053	1978(S53)/12	104	0	11	3	11	6(2)	14(1)	12	5	「日英交通史」復刻版刊行・戦中-戦後留習記4篇
N054	1979(S54)/5	112	20	10	2	20	2(3)	6	3	3	西陵の日中友好-開学以降の留学生百四十余名(事務局)
N055	1979(S54)/12	166	22	19	1	15	6(2)	1(2)	15	3	75周年記念募金趣意書・中国同窓との交流・寮歌祭
N056	1980(S55)/5	113	20	14	0	10	3(1)	0	8	3	創立75周年祝辞・(サンデー毎日)「大学の人流」母校紹介
N057	1980(S55)/12	171	41	19	3	17	5	(2)	14	6	熱烈歓迎-中国同窓生・伊藤久秋-伊東勇太郎師追悼
N058	1981(S56)/5	111	14	10	0	12	3	28	7	1	武藤・浅野教授敬慕稿数篇・瓊林会-商短大会独立
N059	1981(S56)/12	144	7	14	0	14	4	2(2)	9	4	総員104名訪中旅行団記・学部卒会費未納率顕著
N060	1982(S57)/5	116	13	9	0	21	2(2)	3	6	4	(合)適格教授の確保策・事務局交代(三瀬氏・虎尾さん)
12冊	小計 (a)	1526	224	143	15	194	61(11)	91(9)	131	52	
N061	1982(S57)/12	193	41	12	0	16	8(2)	1(2)	15	9	長崎水害被災体験記・被災40名・母校市街写真10葉
N062	1983(S58)/5	194	28	13	2	18	7(1)	2	4	4	永田会長講演録・訪台旅行団報告・瓊林仏師の会展
N063	1983(S58)/12	156	32	19	1	13	15(2)	1(2)	14	4	同期会盛況・瓊翠会発足・寮歌祭(日比谷/神戸)参加
N064	1984(S59)/5	119	32	10	1	17	24(3)	3	4	6	東南ア研活性化「国際交流を考える」・尋ね人(1179名/12%)
N065	1984(S59)/12	170	27	24	1	17	16(2)	1(2)	14	4	専門講座を社会開放する意義・同期会盛況(13団体)
N066	1985(S60)/5	132	27	20	2	12	14(2)	1(2)	4	1	80周年記念祝辞・「校歌に思う」・「長崎高商物語」(読売)
N067	1985(S60)/12	174	42	25	5	15	10(4)	1(2)	19	3	80周年記念式典・同期の集い・「平和の仕事について」
N068	1986(S61)/5	120	47	16	1	13	14(3)	4	3	4	「尋ね人」学13~32回767名(18%)・脇山-珍竹林氏逝去
N069	1986(S61)/12	161	57	29	0	9	16(5)	2(2)	9	7	「長崎大学統合移転の問題について」・「支那事変と高商俳句会」
N070	1987(S62)/5	126	23	21	3	11	18(7)	3	8	2	「長大移転は破筆井か京泊か」・「野村証券の古き良き日」
N071	1987(S62)/12	120	13	24	1	13	24(7)	0(4)	6	8	大学院設置進展せず、来春退任教官数名、敬弔欄多数
N072	1988(S63)/5	140	40	24	1	11	16(5)	3	10	2	「金利自由化とその周辺」・訃報次ぐ(塚原-原田-三瀬)
N073	1988(S63)/12	134	28	19	1	21	13(6)	(2)	15	10	「国際経済関係の変質」・「随想」学卒11名。募金1.95億
N074	1989(H1)/5	116	28	15	2	17	15(4)	2	7	6	転出教授苦言・瓊翠会発足・留学生問題・島尾-松尾文学
N075	1989(H1)/12	107	27	17	2	13	8(3)	3(4)	7	7	学長/学部長寄稿・先輩母校危惧発言・原爆館長の本
N076	1990(H2)/5	86	16	18	1	11	9(1)	5	4	9	「瓊林」低調・会費未納者(5年)に発送停・寄稿者減少
N077	1990(H2)/12	84	0	31	3	9	9(2)	1(2)	11	6	大学院設置期成会・85年記念行事・校歌見直し提議
N078	1991(H3)/5	80	12	12	1	11	6(1)	2	5	10	低調・「これからの日本経済」講演・「組織の衰退と回避」
N079	1991(H3)/12	118	31	26	3	11	6(1)	2(3)	8	5	雲仙岳噴火・院予算要求×(教官不足)・専務理事交代
N080	1992(H4)/5	106	22	15	3	14	8(2)	2	5	10	「長崎大学死に体」前畑発言・大学院設置問題炎上
N081	1992(H4)/12	140	35	26	3	18	7(2)	4(2)	9	7	大学院問題(梅田・兵藤)・東南ア抛金の運用・女子比27%
N082	1993(H5)/4	88	14	15	1	16	21(1)	2	8	10	教官確保急務(定年転出7,採用3)・菊岡-浜永-田中稿
N083	1993(H5)/12	120	0	34	0	20	26(1)	5(2)	8	9	都野(前)高島(新)学部長・教授会決意・梅田近況報告
N084	1994(H6)/4	96	5	23	1	14	26(1)	4(1)	4	6	S20入生被爆体験・堀氏稿(瓊林会提言)・37~G2同期会
N085	1994(H6)/12	112	15	24	2	19	26(2)	4(2)	6	6	H6土井会長・高島学部長挨拶・戦後50年所感(対堤稿)
25冊	小計 (b)	3192	642	512	41	359	362(70)	52(34)	207	155	
注記	(1)本表横軸欄のA~Cは頁数、B・CともにAの内数である。B[名簿]欄には新入・住所勤務先異動会員・募金応募者などの各種名簿を含む。 C[事務局]欄の内容は、[総会報告・会計報告・本部便り・母校便り・編集後記]と[敬弔(合掌)記事]である。 (2)[記事内訳]欄の①~⑥は件数である。また③及び④の括弧数値は何れも外数であり、③は短歌(作者)件数。④は(寮歌祭)記事件数である。										

瓊林49~100号 1冊毎のプロフィール

号数	刊行年月	1冊の頁数			記事の内訳(件数)						本誌の特質・特集記念行事・編集後記など
		A 総頁数	B 名簿	C 事務局	① 特別寄稿	② 随想	③ 俳歌壇	④青春 (寮歌祭)	⑤ 同期会	⑥ 支部便り	
N086	1995(H7)/5	103	9	19	3	15	28(2)	4	8	5	H7大学院設置決定・母校90周年募金・阪神大震災
N087	1995(H7)/12	132	38	33	5	18	29(2)	1	8	8	開校90周年祝典・「原子雲の青春」 坂口教授自叙伝
N088	1996(H8)/5	103	17	17	2	20	31(2)	7	9	4	商短大統合・「揚げば尊し」片鱗なき母校・「随想」(G27)12名
N089	1996(H8)/12	102	14	23	1	19	30(1)	3(2)	8	5	東南ア基金(~11回)運用報告・「人事部長の人材感」
N090	1997(H9)/5	92	11	15	2	17	31(2)	6	7	5	本誌低調・「金融行政の諸問題」(相沢)・「随想」(G29)8名
N091	1997(H9)/12	122	21	21	1	21	26(1)	6(2)	8	3	「学部の実状と課題」(学部長)・読売-長崎記事-朝日広告
N092	1998(H10)/5	96	18	19	1	15	28	7	7	5	永田元会長敬弔・松本/須見(36)藤原(37)石盛(39)氏寄稿
N093	1998(H10)/12	109	17	29	1	23	25	6(1)	8	4	山一証券自主廃業・(G32)随想7名・「アジア研究ゼミ」
N094	1999(H11)/5	99	16	18	1	19	27	2(1)	3	6	朝日新聞広告「事業の革新と人材」・「随想」(G33)6名
N095	1999(H11)/12	102	14	31	2	14	27	2	8	4	学部紹介DVD・芙蓉寮建設・「当世就職事情」(湯藤)
N096	2000(H12)/5	81	11	22	1	10	27	2(2)	7	4	「学部と私」(都野)・長崎大再整備決着・アンケート107通
N097	2000(H12)/12	158	41	36	1	22	27	2(2)	11	8	95周年総会・「実務家」教員大学・S20/8/9母校被爆記
N098	2001(H13)/5	99	12	25	2	17	29(1)	2	3	7	「金融再編成と日本経済」・「鎮魂戦没同窓生」・謝恩会变調
N099	2001(H13)/12	110	15	27	2	25	50(2)	2	10	6	本誌大型化(A4判)・特集「同窓会を考える」16名寄稿
N0100	2002(H14)/5	128	6	13	2	68	43(2)	4	5	5	「100号に乾杯!!」・指導層7名の書簡・一ノ瀬事務局長
15冊	小計 (c)	1636	260	348	27	323	458(15)	56(10)	110	79	
注記	(1)本表横軸欄のA~Cは頁数、B・CともにAの内数である。B[名簿]欄には新入・住所勤務先異動会員・募金応募者などの各種名簿を含む。 C[事務局]欄の内容は、[総会報告・会計報告・本部便り・母校便り・編集後記]と[敬弔(合掌)記事]である。 (2)[記事内訳]欄の①~⑥は件数である。また③及び④の括弧数値は何れも外数であり、③は短歌(作者)件数。④は(寮歌祭)記事件数である。										

冊数	雑誌番号	1冊の頁数			記事の内訳(件数)						52冊全体の姿を纏めると、本表のようになる
		A 総頁数	B 名簿	C 事務局	① 特別寄稿	② 随想	③ 俳歌壇	④青春 (寮歌祭)	⑤ 同期会	⑥ 支部便り	
12	No:49~No:60	1526	224	143	15	194	61(11)	91(9)	131	52	★A・B・Cは頁数、B・CはAの内数 ①~⑥は記事件数
25	No:61~No:85	3192	642	512	41	359	362(70)	52(34)	207	155	は2,922件 ★総頁数は1冊当たり122頁。このうち、
15	No:86~No:100	1636	260	348	27	323	458(15)	56(10)	110	79	B[名簿]が22頁・C[事務局]が19頁。BとCで (1/3)
52	総合計	6354	1126	1003	83	876	881(96)	199(53)	448	286	を占め、あと[①~⑥の記事]が81頁で(2/3)を占める
1.0	1冊当平均値	122.1	21.6	19.3	1.5	16.8	16.9(1.8)	3.8(1.0)	8.6	5.5	★③(歌壇)と④(寮歌祭)の括弧書は外数である。

私は「瓊林」誌52冊から、下記の5冊をベスト5に選んだ。

★ 「瓊林」1冊毎のプロフィール・雑誌のベスト5

Best	誌番号	刊行年月	雑誌内容~評価・推薦理由
1	N0 80	1992(H4)/5	「母校の大学院問題」 「三者懇談会の要旨」を如実に伝える。K教授「川柳講義」記事と何とも対称的
2	N0100	2002(H14)/5	「同窓会の現在位置を掴もう」とする事務局の姿勢に好感。「随想」68篇と豊富。「通覧記」も貴重。
3	N057	1980(S55/12)	長崎高商残照~隆盛期の頂点を示す快い編纂。熱烈歓迎中国同窓生・伊藤久秋・伊東勇太郎師敬慕。
4	N0 83	1993(H5/12)	通常総会での都野部長、高島新部長挨拶・「母校の近況」など、No80以降の経過総括を豊富に綴る
5	N074	1989(H1/5)	「転出T教官苦言」 「島尾・松尾あつゆき」回想・「瓊翠会」など、事務局長は池辺氏より赤間氏へ